

猿新聞

獣害を考える

人類が、ここまで発達してこられたのは、農耕文化が大きく影響していると考えられています。

かつては、人類と動物との間には何の軋轢もなく、自然に共存構造が成立していました。だが、時代が進むにつれ、人類が採集狩猟生活より、その基盤を農耕生産に切り替え農耕文化が発達してきました。この農耕文化が自然界に与えた影響は大きく、特に野生動物に与えた影響は甚だしいものがあります。農業生産の拡大に伴って、人と野獣との「せめぎ合い」が始まり、シカやイノシシは狩猟獣から農作物を荒らす害獣という、性格が加わってきました。

この狩猟活動が個体数抑制管理につながり、生態系のバランスが保たれ、農業生産には大きな被害などはなかったものと考えられます。

時代が進み江戸時代、日本の人口は約2倍に増加し、それに伴い全国的に原野の開墾が進み、耕作地の拡大が進み、それが生息域の縮小につながるなど野生動物に与えた影響は甚大なものがあります。

その結果シカやイノシシなどの野生動物と農業生産活動との軋轢は著しく増大し、江戸の中期には農作物を守るためのシシ垣が全国各地で大規模に建設されてきて、現代でも日本各地にその名残として残っています。

江戸時代中期から明治は、鳥獣の保護といった概念が無い時代で、明治初期、村田銃の開発などで野性動物は乱獲されました。明治から昭和にかけての日本は、動物の数が一番少なかった時代。シカやイノシシなどは大きく減少し、明治以降の1世紀、獣害のない時代が続きました。その後、昭和46年に環境庁が発足し、保護政策が進められ個体数は徐々に回復。それが、平成に入りシカ・イノシシなどの野生動物が急激に増えるという異常増加が続いています。この異常増加が生態系のバランスを大きく崩し、農林業被害が深刻化しているのです。

シカは今や捕獲頭数を上回るスピードで増加してきて、狩猟人口の減少の中、個体数を単年度で適正数に減少させるのは困難。異常増加の要因は、保護政策やオオカミの絶滅、拡大造林、温暖化現象、森林の荒廃、狩猟者の減少や農家の高齢化などが考えられます。

今後、どのようにして自然生態系のバランスを取り戻すかが、早急な課題です。

かつては、野生動物の棲む奥山と人里の間には、人によって管理・利用されていた里山という場所があり、里山は、野生動物との垣根の役割を果たしている。棲み分けが出来てい

したが、農村の近代化による燃料革命や肥料革命などで里山は見捨てられ、さらに中山間地域の過疎・高齢化などで荒廃。結果として野生動物の生息域と人間の住む地域との境が曖昧になり、農業被害が深刻化しているのです。

今から数年ほど前、経済的な豊かさや引き替えに、私たちは、里山など自然環境を手放し、自然に対する人間の働きかけが大きく減少しています。

人間の身勝手な活動で身近な自然や動物が失われていきます。その影響は、いずれ私たちに及ぶことになるのです。

現在起きている獣害は、その「しっぺ返し」だと思ってください。

獣害対策には防護柵の設置が防除の一般的な考え方で、補助金により導入されている柵が各地域にあります。管理が十分であれば100%被害を防ぐことができます。管理が非常に大変という中で、巨額のお金を投資して結局役に立たないまま放

置されているという、残念な例が各地域で多く見られます。

個人柵ではコストバランなど経済的な問題があります。また、集落全体を包囲する集落柵では、道路や河川など設置出来ない箇所からの「すり抜け」があり、既に集落柵が設置されている集落でも被害は大きく減少したとはいえないのが実状。

現在の獣害問題は、決して農作物に限った農業問題ではなく、日本の国土面積の約7割を占める中山間地域の活動衰退と、野生動物の異常増加が相まって起こっている大きな社会問題です。

野生動物と人間は互いの生活へのかかわりを最小限にとどめてそれぞれが別々に暮らせることが最も望ましい形で、私たちが目指す究極の目標です。

人のいるところに動物が入ってきたのではなく、動物たちのエリアに人間の方が邪魔な状態という考えも、チョット頭の片隅に置いて今後の対策を考える必要があるのではないのでしょうか。

新たなサル問題として、市街地に侵入したハナレザルによる生活環境被害や、人身被害が全国的に増加傾向にあります。特定の農耕地周辺や市街地に居着いてしまい、住民から顔を覚えられてしまうまでになるハナレザルもいます。

こうした個体は時としてかなり大胆になり、人を脅したり、人家に侵入したりすることが多くなります。このような個体が群れに入ると、人を怖がらず、人家近くに頻繁に出没するようない悪い習慣を、群れ全体に伝えるといわれています。

決して農作物に限った農業問題ではなく、日本の国土面積の約7割を占める中山間地域の活動衰退と、野生動物の異常増加が相まって起こっている大きな社会問題です。

野生動物と人間は互いの生活へのかかわりを最小限にとどめてそれぞれが別々に暮らせることが最も望ましい形で、私たちが目指す究極の目標です。

人のいるところに動物が入ってきたのではなく、動物たちのエリアに人間の方が邪魔な状態という考えも、チョット頭の片隅に置いて今後の対策を考える必要があるのではないのでしょうか。

サルは記憶力が良くおいしい食べ物の場所がはっきりと覚えていて、また、怖い人、怖くない人はよく覚え見分けているそうです。五感人間並みです。匂いや音にはあまり敏感ではなく行動は全て視覚に頼っています。サルが目から餌となるような物を隠すことが重要なことです。生ゴミの放置、放任果樹などは、餌付けにつながり、出没の原因となります。先日、屋内保管の餅米が被害に遭ったという情報がありました。サルに見えない場所に保管して施錠。施錠してあってもガラス越しに見えるようでは駄目。出没状況など多くの情報を地域で共有し、出来ることから、みんなで協力してやること

編集責任者 山村 準
tel: 0595-63-1725
Email jyun.y@asint.jp
名張鳥獣害問題連絡会
発行部数
【全戸回覧】
錦生地区：100部
赤目地区：150部
箕曲地区：70部
ひなち地区：200部
つつじが丘：430部
【全戸配布】
国津地区：380部
市民センター：90部
(9地区)
名張市議会：20部
名張市役所：20部

サル対策

ば、ハナレザルの市街地出没を防止する対策なのかもしれない。また逆に、市街地で人慣れが進んだハナレザルが、群れに戻ると群れを呼び込むことも考えられます。

このような状態が続けば、群れザルが市街地に居着く可能性も考えられます。今までの上での警戒対策が必要になってきます。

つつじが丘のハナレザル出没の原点は、軒下のつるし柿といわれています。

サルは記憶力が良くおいしい食べ物の場所がはっきりと覚えていて、また、怖い人、怖くない人はよく覚え見分けているそうです。五感人間並みです。匂いや音にはあまり敏感ではなく行動は全て視覚に頼っています。サルが目から餌となるような物を隠すことが重要なことです。生ゴミの放置、放任果樹などは、餌付けにつながり、出没の原因となります。先日、屋内保管の餅米が被害に遭ったという情報がありました。サルに見えない場所に保管して施錠。施錠してあってもガラス越しに見えるようでは駄目。出没状況など多くの情報を地域で共有し、出来ることから、みんなで協力してやること

稲の食害、イノシシでは、収穫直前の稲穂の食害と田圃を「又々場」にすることです。

シカ・イノシシ被害が耕作意欲減退や耕作放棄地拡大につながっているといつて過言ではありません。

イノシシは学習能力が高く、学習した事柄が長期間忘れません。季節ごとの植物の熟成期や、その場所は頭にインプットして、今年侵入してきた圃場には、翌年必ずといっていいほど侵入します。

イノシシは開けた場所を嫌います。このため山林内や藪に沿って移動することが多く、真つ先に狙われるのは山林や藪に面した農地です。山際の藪など刈り取りイノシシの近寄りにくい環境づくりが大事な対策の一つです。次に柵ですが、いまのところは管理不要の柵はなく、人手による

きめ細かな管理は欠かせません。特に電気柵では、漏電防止のためイノシシは繁殖力が旺盛です。

狩猟者が減少し人間が暮らす集落と野生動物の棲家が急接近したことが獣害の一因にあります。狩猟者が高齢化、若手不足という現状では、繁殖力が旺盛

イノシシをはじめとする獣害は、農業を行う上で避けては通れない課題です。

農家は高齢化の中、少しでも被害を減らすために日夜努力を重ねています。

最も深刻なのはシカ・イノシシ被害で、シカについては、6月頃

イノシシ対策

イノシシをはじめとする獣害は、農業を行う上で避けては通れない課題です。

農家は高齢化の中、少しでも被害を減らすために日夜努力を重ねています。

最も深刻なのはシカ・イノシシ被害で、シカについては、6月頃

イノシシ対策

イノシシをはじめとする獣害は、農業を行う上で避けては通れない課題です。

農家は高齢化の中、少しでも被害を減らすために日夜努力を重ねています。

最も深刻なのはシカ・イノシシ被害で、シカについては、6月頃

イノシシ対策

イノシシをはじめとする獣害は、農業を行う上で避けては通れない課題です。

農家は高齢化の中、少しでも被害を減らすために日夜努力を重ねています。

最も深刻なのはシカ・イノシシ被害で、シカについては、6月頃

イノシシ対策

イノシシをはじめとする獣害は、農業を行う上で避けては通れない課題です。

農家は高齢化の中、少しでも被害を減らすために日夜努力を重ねています。

最も深刻なのはシカ・イノシシ被害で、シカについては、6月頃

チャット一服

縄文人の生活

縄文時代は、主に植物採集や狩猟、漁労の三つの活動によって、食べ物を得ていたと考えられていますが、粗放的な農耕が行われていた痕跡もあります。縄文時代という、狩りで獲った獣が主な食べ物であるというイメージが強いのですが、実際には植物質の食べ物の占めていた割合が高かったと考えられています。植物質の食べ物に次いで重要だったのが魚です。狩りで獣を獲るのは主に冬です。そして、とれる時と獲れない時があります。それに比べて魚は、種類を組み合わせれば1年を通じて、毎回ほぼ確実に一定の量をとることができます。動物質の食べ物のうち、獣よりも魚の占めていた割合が高かったと考えられています。海のな



い内陸部ではフナ、コイ、などの淡水魚を獲っていました。特に東日本では、春に川をさかのぼるマス、秋のサケが重要な食料となっていたと考えられます。貝類も盛んにとっており、350種類以上の貝が食べられていて各地に貝塚が形成されています。狩りの獲物でもっとも多いのがシカとイノシシです。遺跡からは、多数の鏃が発見されるので、主に弓矢を使って狩りをしていたことがわかります。狩猟、漁労、植物採集のほか、縄文時代に粗放的な農耕が行なわれていたのではないかとという学説があります。賛成、反対とそれぞれの学説があるのですが、縄文時代の遺跡から出土した植物の中に、日本にはもともと自生しない栽培植物、ヒョウタン、シソ、エゴマなどがあります。農業といわないまでも、簡単な植物栽培をしていたことがわかっています。

衝突事故増加

近年、シカやイノシシの増加に伴い、北海道を始め全国的に、野生動物と自動車や列車の衝突事故が山間部を中心に増加しています。列車との衝突事故は、年間

なイノシシの適正管理は絵空事になりかねません。また、国が推奨する「現状の倍以上のペースで捕獲」これも絵空事。害獣の増加の原因である農村人口の高齢化や林業の衰退。加えて狩猟人口の減少は今後ますます深刻化し被害はさらに多くなることは容易に想像できます。国の抜本的な政策が待たれるところです。

動物との衝突事故は多重事故や歩行者を巻き込む重大事故につながる恐れがあります。動物を見かけたら速度を落として冷静に回避するか、小動物の場合、安全に避けきれない時は轢いてしまうという心構えも必要で改善の策といえます。

なんと5000件に及んでいます。また、シカとの衝突は北海道内だけでも年間2000件以上。動物の飛び出しは、予知することも避けることも困難で、運転者は、ただただ驚くばかりでパニックに陥り、急ハンドルを切ったり、急ブレーキでの転覆や物損事故が多いです。「動物注意」などの標識がある場所では、特に夜間は、注意して走行する必要があります。動物との衝突事故は多量事故や歩行者を巻き込む重大事故につながる恐れがあります。動物を見かけたら速度を落として冷静に回避するか、小動物の場合、安全に避けきれない時は轢いてしまうという心構えも必要で改善の策といえます。

警察に事故報告をし、事故証明をとっておきましょう。また、道路上に死骸などが放置されていると、二次衝突の恐れがあるので、関係部署への連絡など十分な配慮が必要です。

衝突事故の相手は殆どがシカ・イノシシで、繁殖期は両者とも行動範囲が広がり、道路横断などの移動も多く衝突事故には注意が必要な時期です。シカの繁殖期は晩秋。イノシシは初冬。運転者自身も飛び出しの危険を常に意識しながらハンドルを握ることが大切なことです。運悪く衝突した時は



国は、野生動物との衝突事故を、新たな時代の交通問題と捉え、危機感を持った早急な対策が必要です。単独事故の場合には車両保険から保険金が支払われますが、事故の状況や損害の箇所、車両保険の種類によっては保険金が支払われないこともあるので注意が必要です。

サル情報

A群は、青蓮寺湖畔の桑の実や比奈知湖周辺のアカシアを食べ尽くし、上比奈知、下比奈知や奈垣・つつじが丘を遊動しています。A群ハナレザルは、先月と比べて出没頻度は少なくなりましたが、相変わらず出没しています。ハナレザルの出没は一過性であることが多く、個体の特性や地域の環境などで定着性が高くなる可能性があります。ハナレザルの捕獲は難しく、特に市街地での捕獲は困難を極めます。つつじが丘は、ハナレザルによる重大な人身事故がいつ起こっても不思議ではない状態。一日も早い捕獲が望まれます。一方B群は、昨年来不安定な状態が続いていましたが、先月から行方不明状態。指導員によると、広範囲を探索するも目視はおろか、受信も途絶状態。受信不能は電池消耗？。目視出来ないという点とは、B群は49キロ平方という遊動域を持ちながら、10頭前後と超過疎状態となっているので想定外の地域に移動したか、消滅したということも考えられます。何れにせよ再度遊動域全体を探索し、消滅の有無を確認すると共に今後の対策を考える必要があります。

名張B群移動状況 平成30年6/21~平成30年7/20

名張A群移動状況 平成30年6/21~平成30年7/20



特集 抱きつきザル

名張市つつじが丘

2018/05/25 08:20:00

ハナレ、午前8時前からつつじが丘北9番町と10番町境界付近に出没と連絡あり出動。サル発見、5連発で追い払う。燕の巣を襲っていたとの付近住民の話。エンドウ豆など被害多数発生した。

2018/05/24 14:30:00

ハナレ、つつじが丘北9番町に2日程位前から出没。今朝も連絡あり6番町7番町9番町10番町とパトロールするも発見出来なかった。檻1・2共餌が無かった。群れ12時前青蓮寺橋東詰で目視。

2018/06/01 08:00:00

ハナレ、つつじが丘北9番町に出没。モンキー犬出動。小学生集団登校中小学生1名が噛まれたが、そのまま学校に行き治療を受けた。

2018/06/05 16:30:00

ハナレ、つつじが丘北4番町公園北側付近で大人の女性に抱き被害発生と中学校より連絡あり出動。公園横で発見、5連発のロケットで追い払い実施。学校としては、生徒帰宅時間なので先生動員し、この付近しばらく警戒すること。

2018/05/22 16:10:00

つつじが丘南3番町45番地前で、中学生が帰宅時ハナレザルに遭遇、危なく襲われかけたとの情報中学校よりあった。この付近要注意場所。

2018/06/08 11:00:00

ハナレ、つつじが丘南3番町生活支援センターのドアが開いていたので2頭侵入。和室のふすま倒しりポリタンクを持ち出したり炊事場も被害にあう。市職員と40分位追跡。まだ付近にいる模様。

2018/06/07 17:20:00

ハナレ、つつ出動じが丘南6番町に出没情報あり。南7-187付近民家から棘入り袋盗み食べながら南7のいつもの234番地に逃げ込む。この家の犬と仲良し。

2018/05/25 18:30:00

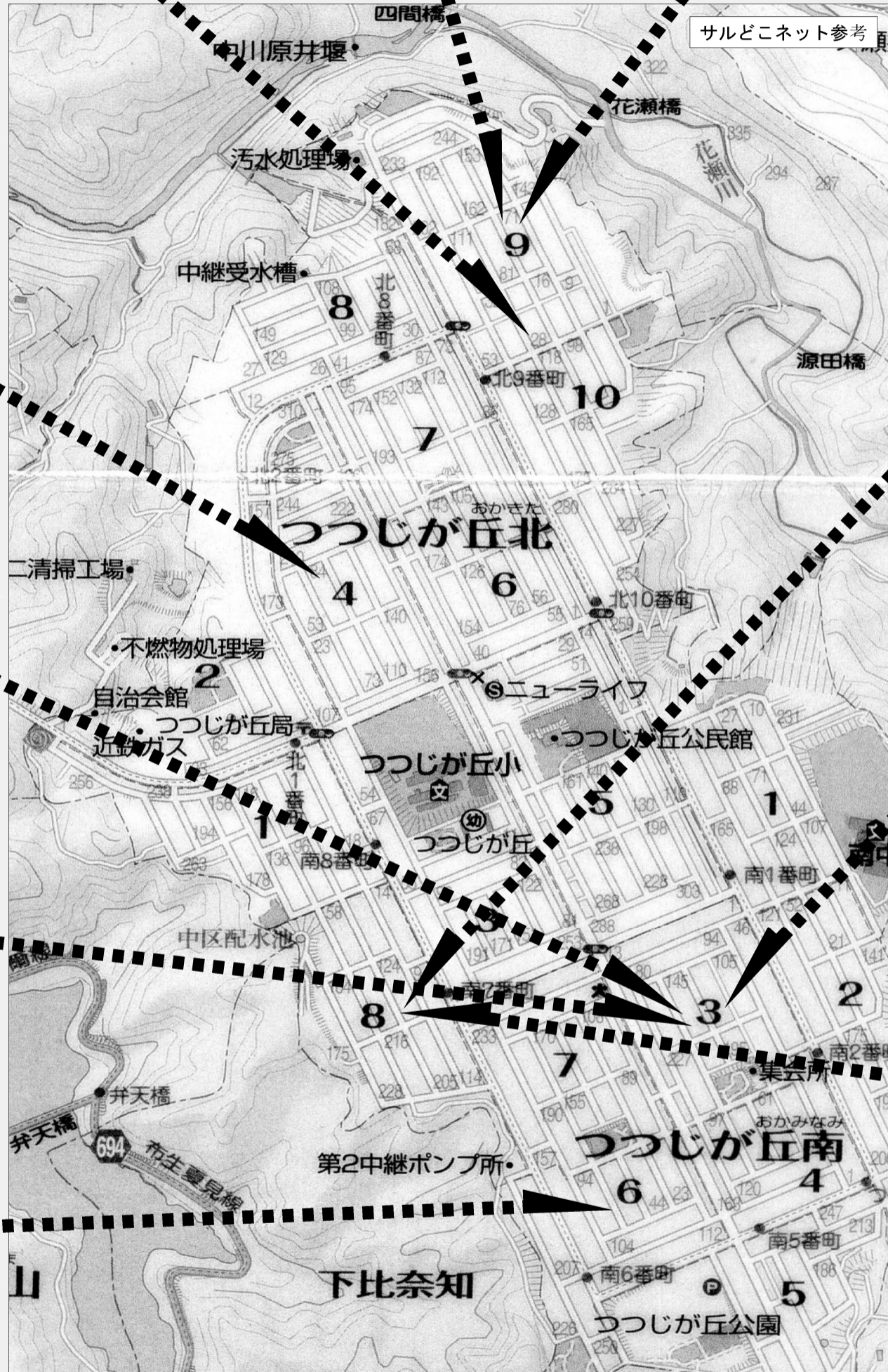
ハナレ、つつじが丘南8番町西から2筋と3筋の間を南側から侵入。追い払い実施し、北1番町まで追うも見失う。

2018/06/13 15:10:00

ハナレ、3時10分頃中学校より出没したとの連絡あり捜索。南3番町46番地より道路に出て来たのに遭遇。そのとき運悪く女性が子犬を連れて散歩していた。ハナレはその女性と犬に中に向かって突進。女性と犬は私の車の後部座席に避難し事なきを得た。その後5連発で追い払い実施。

2018/06/07 10:45:00

ハナレ、名張市つつじが丘南8番町160番地民家玄関より侵入。もち米玄米を食べられたと連絡あり出動。7人で5連発を発射追い払い実施。11時20分南7番町方面まで追跡。



ハナレザル 直近情報

名張市つつじが丘のハナレザル出没が、5月〜6月に入り極めて多くなっています。ハナレザルは2頭で、オトナオスと少し体型の小さいワカモノオスといわれています。悪さを働いているのは、どうやら体型の小さな個体だそうです。上図をご覧ください。

5月21日〜6月20日の30日間で出没が10回という異常な多さです。また、その行動も登下校の生徒に噛みつきたり、女性に抱きついたり家屋侵入被害など、日増しにエスカレートしています。抱きつかれた女性は30人を超えています。

ここまで人慣れが進むと有害駆除以外の対策は見当たりません。だが、住居集合地域での有害駆除は、どのような手法をとっても難しいです。先日千葉県で、サル駆除での誤射事故で尊い人命が失われています。

ハナレザルには無線発信機が装着されていないので位置情報などは皆無で神出鬼没です。普段見かけない場所でサルを目撃した場合は、ハナレザルの可能性ががあります。

ハナレザルは、人の食べ物の味を覚えていて、戸を開けて家屋に侵入し、台所から食料品を盗むものもいます。近隣でハナレザルが出没している時は戸締りをしっかりしておいて下さい。

『住民パワーを結集してサルに立ち向かう!』
住民パワー以外に今のところ対策はないと思っておいて下さい。

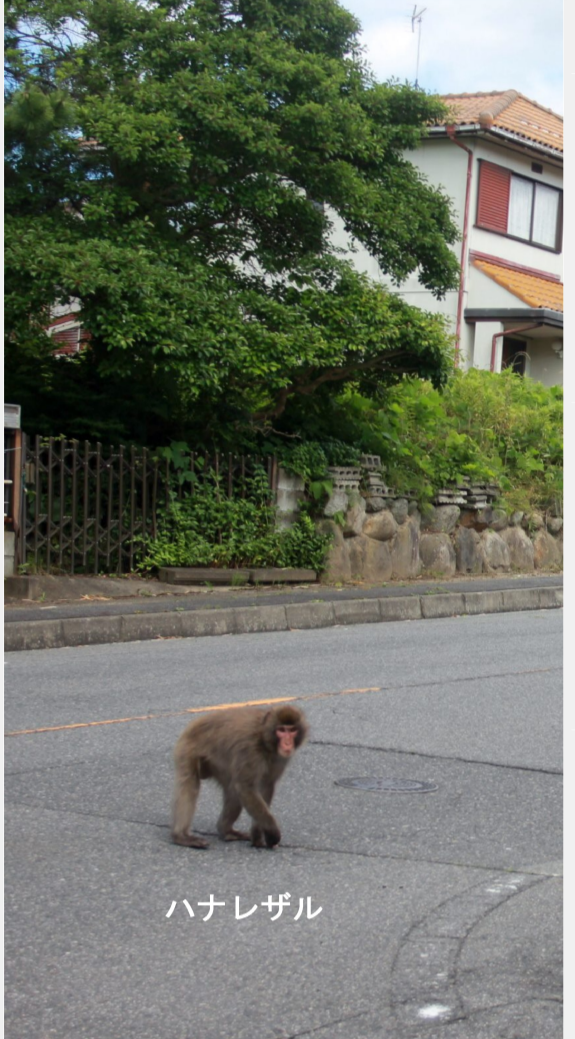
ハナレザル 写真情報

6月13日3時10分頃中学校より出戻したとの連絡あり調査。南3番町46番地より道路に出て来たのに遭遇。そのとき運悪く女性が子犬を連れて散歩していた。ハナレはその女性と犬に中に向かって突進。女性と犬は私の車に避難し事なきを得た。



散歩中の女性と犬

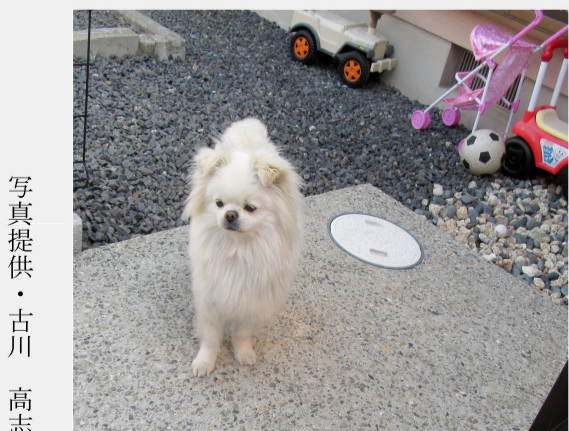
ハナレザル、犬に向かって猛ダッシュ！！



ハナレザル



6月8日、つつじが丘南3番町生活支援センター玄関のドアが開いていたので2頭侵入。和室のふすまを倒しリポリタンクを持ち出したり炊事場も被害にあう。



写真提供・古川 高志氏

ハナレザルと仲良しのワンちゃん。

辰ちゃん罠

辰ちゃん罠といひます。日本初となる「サルくり罠」です。開発したのは小松島の杉本工業。地面ではなく、ある程度の高さに垂直に設置するのが特徴で、餌をとろうとするサルの腕をワイヤでくり捕獲する。直径25㍉の透明な容器に、「おびき餌」を入れ、容器の縁に添ってワイヤを仕掛ける。餌を奥に入

れ、サルが引っ張り出そうとすると罠を動かす仕掛けに触れ、ワイヤが腕をくくる仕組み。同社による試験では、1週間程で1匹捕獲。その後月に1匹程度の割合でかかったという。果樹・畑の柵や軒下にも設置可能。大きな箱罠や銃より手軽で安全だ。※つつじが丘では、6月中旬から設置しています。

